

なかふくら

～花と作文とあいさつの学校～



南九州市立中福良小学校

脳裏に思い出すのは、敗戦

校長 折田 明世

元プロ野球選手の、松井秀喜。その松井選手が高校時代に所属していたのが、星陵高校。

この星陵高校は、ある年、石川県予選決勝で9回に8点差を逆転して甲子園行きを決めました。素晴らしい粘りです。

松井選手は、この時の母校の活躍を喜んでいるのかと思いましたが、本の中で、このように述べていました。

僕はどうしても敗れた小松大谷高校のことを考えてしまう。甲子園の土を踏むことを目標にプレーする高校生にとって、地方大会決勝での逆転負けよりシヨクなことはないだろう。

彼らは今どうしているだろう。なぜあんなったのか。どうすれば良かったのか。特に3年生は毎日のように考えているのではないか。何度も脳裏によみがえるのは、勝利ではなくいつも敗戦だ。

高校生が痛い敗戦を引きずるのは仕方ない。ただどんな思いを抱えていても、先に進む以外にできることはない。誰も永久に勝ち続けることはできない。

この中で印象に残ったのは、

※ 高校生が痛い敗戦を引きずるのは仕方ない。ただどんな思いを抱えていても、先に進む以外にできることはない。誰も永久に勝ち続けることはできない。

という部分です。

プロ野球選手をめざし、そして、成功した松井選手。いつでも、前向きに、成功体験を取り上げてプラス思考で生きてきたのかと思っていました。しかし、この文章を読んで、松井選手の人間の深さを感じました。

人生に敗戦はつきもの。小松大谷高校の選手たちは、敗戦を乗り越え、先に進むことで、敗戦を人生の財産として今後の人生をたくましく生きていってくれることでしょう。

このことは、私たちにも言えます。

私たちの人生は、負けることがほとんどです。ですから、松井選手の言葉のように、負けることから何かを学ぶ姿勢が大切だと思います。負けたことをいつまでも引きずらないで。

【どんな思いを抱えていても、先に進む以外にできることはない。誰も永久に勝ち続けることはできないのだから。】

という言葉は、名言だと思います。



なわとび練習

先日なわとび発表会については中止となり、児童による発表会となりましたが、子どもたちの練習の様子をお伝えします。



児童集会（健康集会）

今月の児童集会は保健体育委員会が担当し、健康集会が行われました。手洗い実験の結果を発表したり、職員の健康法の紹介をしたりしました。保健室前に掲示しているので、来校の際はご覧ください。



社会を明るくする運動 作文コンテスト表彰

6年 さんが優秀賞を受賞し、表彰式が行われました。また後日、南九州市長様に表敬訪問をいたしました。



◆ 2月の行事予定 ◆

1	火	読書旬間～9日（8日：読書集会） かごしまジュニア検定（5・6年）～12日
2	水	小小連携6年（霜出小とオンライン）
3	木	第3回学校評議員会、家庭学習強調週間～9日
4	金	入学説明会 体験入学 子育て講座 3・4年社会科見学（予定）
8	火	希望保護者対象の担任と語る会～17日
10	木	民生委員会
22	火	家読の日
24	木	卒業式全体練習

☆輝く子どもたち☆

○第64回県児童生徒作文コンクール
入選

○児童生徒ふれあいボランティア活動事業の推進に貢献したとして、市社会福祉協議会より さんが表彰されました。

○かわなべ青の俳句
特選
「しおだまり 海の小さな 水ぞくかん」

ゆめさとタイム：1日（火）14:30～15:30

